

学生街を歩く ②

◆近畿大学・近大前商店街

(大阪府東大阪市)

読売新聞記者 中西 茂



正面が近大西門。右手に「カカリョー」の文字がみえる。

食堂「キッチンカロリー」は、近畿大学東大阪キャンパス西門の目の前にある。この夏、開店から四四年目を迎えた。この店を一年ほど前、ブライスという名の女子学生が訪ねた。「近大オールスターズ」の先輩に連れられてのことだった。店の印象をブログでこんな風につづっている。

「近大前商店街の中では一番古いお店らしい。確かに、店内も下町の食堂っていう感じだった。で、今日は先輩オススメの『チーズオムレツ』を食べました。オムレツの中はとろとろチーズがたっぷり。チーズ大好き私には、たまらない一品でした」そうそう、この『キッチンカロリー』、

近大のクラブやサークルの合宿の時には、朝・昼・夜に食事を配達してるんだって。しかも 毎食メニューを変えて、絶対同じものは出さないっていうポリシー。熱く語るマ

スターのおじちゃん、かつこよかったよ(笑)。

ところで、オムレツについてるライス。並盛りで、お茶碗二?三杯はあると思います(笑)。さすがにカロリーの取り過ぎか!

ブライスとは、大きな瞳が特徴の米国生まれの人形である。近大では、この春に開設した総合社

会学部のシンボルキャラクターに採用、昨年七月からブログで架空の学生生活をつづってきた。その中で、学生街の飲食店代表として「カロリー」を登場させたのだった。

「近大オールスターズ」の方は実在する。オーブンキャンパスで活躍する学生のボランティアアスタツフだ。メンバー約二〇〇人の三分の一は女性である。近大といえれば一九七〇年代に大ヒットした漫画「嗚呼!!花の応援団」が思い浮かぶ。かつては大学自体に硬派なイメージがあった。今もキャンパス全体では女子学生は三割だが、総合社会学部の一期生は男女半々。文芸学部だと女子学生の方が多い。応援部も、女子のチアリーダー一二人に対し、男子のり



新設の総合社会学部をPRするブライス



キッチンカロリー主人の椎林さん

ーダーは新入生二人を入れても七人しかない。十一月に開かれる大学祭「生駒祭」では、近鉄大阪線長瀬駅までの七〇〇メートル近い商店街のパレードが恒例だ。団旗の持ち手がいつまで確保できるのか、OBでなくても心配になるといふものだ。

そんな話を聞いたのは広報課の澤田和典さんからだった。近大OBとして商店街のはやりすたりも見てきた。「カロリー」の斜め向かいには、閉店したゲームセンターの跡がそのまま残る。あちこちで持ち帰り弁当がよく売れている。澤田さんによると近年、この通りのコンビニエンス

ストアが何軒も短期間で閉店した。代わりに出店したのは百円ショップだ。

「ペットボトル入りの飲み物もお菓子も、コンビニより安く買えてしまう」（四回生女子）の気がよいのである。

さて、「カロリー」の経営者の椎林要治さん（七〇）によると、「応援部のチアさんも来ること

はある」ものの、店の客のうち九五％は男性が占めるのだという。

開店当時のメニューを見せてもらった。コーヒー六〇円、カレー一〇〇円、そしてカレー味の野菜いため「ガチャ鉄板焼き」二〇〇円。今、この名物は六〇〇円だが、その量は変わらない。オムレツにつくライスに劣らず、ボリュームがある。元々、「野菜不足にならないように」という親心メニューだ。そもそも、「カロリー」という店の名前自体が、「学生さんたちに栄養を付けてあげたい」という思いから付いている。

今もOBが姿を見ることが多い。「味は体調で変わる。『変わっていない』と言われるとほっとする」。ちなみに、開店当時のアルバイトの時給は五五円。経験した学生の中には、奈良県でフランク料理店を開いた人までいる。

近大の前に関西大学を訪ねたことを伝えると、椎林さんの口から、関大前の食堂「若草」の名前が出た。学生街の食堂として、一緒に紹介されることが多く、「（経営者として）いっぺん、飲みたかったなあ」。残念ながら、「若草」は昨年閉店、経営者は今年亡くなった。

ちなみに、かつて椎林さんは東京で修業している。店の名前もその縁でもらった。椎林さんも働いた学生街・お茶の水の「カロリー」は今も健在である。